

授業を変える魔法の言葉

西部教育事務所 管理主監 栗本郁夫

「先生は、自分の子供を亡くしたお母さんの気持ちをどんなふうに考えましたか？」

私が初任者の時、授業後に先輩の国語の先生からいただいた言葉です。当時、私は中学校1年の国語の担当で、米倉齊加年さんの「大人になれなかった弟たちに……」という題材で、我が子を失った母の悲しみを考えさせる授業を行っていました。当時、学び合い活動が盛んに行われ、私は迷わずグループで母の気持ちを考えさせ、生徒たちは自分の考えを出し合い、私は授業に満足していました。そんな時、先輩からの一言で、はっとしました。振り返ってみると生徒の意見は表面的で深まりは感じられず、授業中笑い声も聞こえた気がしました。私は、授業の本質、作品の奥深さを何も理解せず、表面的な指導法を実践するために授業を行っていたのです。

また、十年目に道德の授業をしていた時、校長先生がふらっと見に来て、終わった後、一言声をかけてくれました。「まだ、教師と生徒の一对一の授業から抜け出してないね。生徒が発言したら、その発言についてどう思うかを他の生徒に返していただくだけで授業が変わるよ。」と。なるほど、それまで私は一人を指名すると、「他に」と別の生徒をすぐに指名し進めていましたが、校長先生の助言通り、一人の発言をもとに関連する意見を聞いていくと、生徒の様々

な考えが補足され、授業が深まるようになりました。その時、私は、十年間も毎日授業をしていて、このことに気づかなかった自分、つまり指導技術が伴っていなかった自分を情けなく思うとともに、校長先生の一言に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今、各学校で「主体的・対話的で深い学び」に向け、様々な視点で授業改善を進めているところであると思います。その際、改めてゴールである児童生徒に身に付けさせたい力を教師が明確にもつことと、児童生徒の実態や題材の特質を踏まえて効果的な指導法を工夫することが重要であると考えます。

本年度末、西部管内では100人を超える先生方が退職し、新採用の先生を迎えます。この傾向は数年続き、ベテランや中堅の先生方の若手への指導技術の伝承が重要になっています。その際、指導技術だけでなく、授業の本質にかかわる考え方も含めて伝えたり、互いに学び合ったりしていくことが大切ではないでしょうか。

授業を変える魔法の言葉なんてないかもしれませんが。しかし、毎日の授業の中で、子供たちが「何ができるようになるか」「どのような考えをもてるようになるか」という授業の本質にかかわる問いかけを忘れずに授業を振り返ったり、語り合ったりすれば、魔法の言葉に出あえるかもしれません。

来年度に向けて

生徒指導

いじめ問題の対応等について

各校の実態・課題等を踏まえ、「いじめ防止基本方針」の見直しをお願いします。特に、重大事態に該当する案件が生じた際の対応について、適切な対策が講じられているか再度確認をお願いします。また、いじめの正確な認知に向けて、いじめの定義等について全職員で共通理解を図りましょう。

特別支援教育

個別の教育支援計画等について

新学習指導要領により特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童生徒について、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が義務づけられました。

障害のある児童生徒については、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行えるよう、作成した個別の教育支援計画や指導計画の見直しをお願いします。